様式１

給水設備設置計画事前協議書

（□住居用飲用井戸等施設・□業務用飲用井戸等施設・□小規模貯水槽水道施設）

　　年　　月　　日

　　（あて先）札幌市保健所長

　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　給水設備設置者

　　　　　　　　　（又は代理人）　　氏　名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　電　話　　　　　　　担当者

　　法人にあっては、その名称、主たる

事務所の所在地及び代表者の氏名

　札幌市給水設備の構造及び維持管理等に関する指導要綱第８条の規定に基づき、当該給水設備に係る設置計画について下記のとおり提出します。

記

１　施設の名称

２　施設の所在地

３　給水設備の概要　　　　　　　　　　別添のとおり

４　給水設備審査項目表及び図面等　　　別添のとおり

５　工事予定期間

　　　　　　年　　　　月　　　　日～　　　　　年　　　　月　　　　日

６　給水設備設置者

　　住　所

　　氏　名

７　給水設備設計者

住　所

　　氏　名

電　話

　　ＦＡＸ　　　　　　　　　　　　　　　担当者

給水設備の概要

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設の概要 | 主要用途 | | | □共同住宅（□分譲：　　戸　□賃貸：　　戸）　□社宅　□寄宿舎  □事務所　□学校　□病院　□店舗　□旅館　□工場　□その他（　　　） | | | | | | | | |
| 建築物 | | | 地上　　　　階 地下　　　　階　　延べ床面積　　　　　　　　　　m2 | | | | | | | | |
| 給水面積 | | | m2 | | 給水人口 | | | 人 | | | |
| 使用水の種類 | | | □札幌市水道水　□井水　□湧水・沢水　□河川水　□その他（　　　　　） | | | | | | | | |
| 給水方式 | | | □ポンプ加圧方式　　□高置水槽方式　　□圧力タンク方式  □水道直結箇所有（　　　　　　　　）　□その他（　　　　　　　　） | | | | | | | | |
| 給　　　　水　　　　設　　　　備　　　　の　　　　概　　　　要 | 井　　　戸　　　等 | 設置場所 | | □建築物内（　　　　　　　　　）□建築物外（　　　　　　　　　） | | | | | | | | |
| ケーシング | | □床（地表）面上　　　　　mm　□床（地表）面下　　　　　　　　mm | | | | | | | | |
| 井戸深さ | | m | | ストレーナー位置 | | | | m | | |
| 塩素滅菌器 | | □有（　　台）（方法：□加圧式□点滴式　注入箇所：　　　　　　）□無 | | | | | | | | |
| 虫卵除去装置 | | □有（　　台）□無 | | | | | | | | |
| 浄水設備 | | □サンドセパレータ（　　台）□曝気装置（　　台）  □除鉄・除マンガン装置（　　台）□活性炭ろ過装置（　台）  □膜ろ過装置（　　台【種類：　　　】）　□その他（　　　　　：　台） | | | | | | | | |
| 1日使用水量 | | | m3 | 1日最大給水量（井水等の場合） | | | | | | | m3 |
| 受　　水　　槽 | 容量 | | 総容量　　　　　　m3（　　　m×　　　m×　　　mH）  有効容量　　　　　m3（　　　mH） | | | | | | | | |
| 材質 | | □FRP　　□SUS　　□コンクリート　　□その他（　　　　　　　） | | | | | | | | |
| 槽　　数 | | □2槽式　　□単槽式 | | | 型　　式 | | □床置型　　□床下型 | | | |
| マ　ン  ホール | | 直径（　　　　mm）　　　　個数（　　　個／1槽　合計　　　個）  施錠：□有　□無　　　　立ち上げ：　　　mm　　□防水密閉構造 | | | | | | | | |
| 設置場所 | | □建築物内（地上 　階・地下 　階【　　　　】）□地下ﾋﾟｯﾄ　□建築物外 | | | | | | | | |
| 高　置　水　槽 | 容量 | | 総容量　　　　　　m3（　　　m×　　　m×　　　mH）  有効容量　　　　　m3（　　　mH） | | | | | | | | |
| 材質 | | □FRP　　□SUS　　□コンクリート　　□その他（　　　　　　　） | | | | | | | | |
| 槽　　数 | | □2槽式　　□単槽式 | | | 型　　式 | | □床置型 | | | |
| マ　ン  ホール | | 直径（　　　　mm）　　　　個数（　　　個／1槽　合計　　　個）  施錠：□有　□無　　　　立ち上げ：　　　mm　　□防水密閉構造 | | | | | | | | |
| 設置場所 | | □建築物内（地上 　階・塔屋 　階【　　　　】）　□建築物外 | | | | | | | | |
| 給水ポンプ | | | 台数：　　　台　　性能：　　　　L／min　全揚程：　　　　　m | | | | | | | | |
| 給水管 | 材質 | | □硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　□ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　□ｽﾃﾝﾚｽ鋼管  □その他（　　　　　　　） | | | | | | | | |
| 管更正 | | □有（　　　年　　月：方法　　　　　　　　　　　　　　）　□無 | | | | | | | | |
| 継手 | | □コア内蔵防食継手　□ステンレス継手　□その他（　　　　　　　） | | | | | | | | |
| 直結給水栓 | | | （水道水使用の場合）□有（場所：　　　　　　　　）　　□無 | | | | | | | | |
| 防錆剤使用 | | | □有（商品名　　　　　　　　　：　　　年　　月使用開始）　□無 | | | | | | | | |
| 排水ポンプ | | | （地下ピット式の場合）台数：　　　台　　性能：　　　　L／min | | | | | | | | |
| 雑用水 | | | 給水系統 | □飲料系統と同じ　　□飲料系統と別 | | | | 水源 | | | □水道水　□井水等 | |
| 水槽 | □飲料用水槽と兼用　□飲料用水槽と別（　　　m×　　　m×　　　mH） | | | | | | | | |
| 給水開始前の措置 | | | | □給水管洗浄（　　　年　　月実施）□貯水槽清掃（　　　年　　月実施） | | | | | | | | |

給　水　設　備　審　査　項　目

１　井戸等　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | | 基　　準 | 設　計　値　等 | 参照図面番号等 | 判定 |
| ⑴ | 井戸の設置場所 | | 建築物内 | □建築物内・□建築物外 |  | 適・否 |
| 井戸小屋等の  出入口の施錠 | | 施錠できる構造  とすること | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑵ | ケーシングの立ち上げ | | 床面から300mm以上 | （　　　　　　　mm） |  | 適・否 |
| ⑶ | 汚水排水施設等　　からの離間距離 | | 5ｍ以上 | 汚染のおそれのある施設  □無・□有（離間距離　　　ｍ） |  | 適・否 |
| ⑷ | 湧水等の場合 | 取水口の囲い | 設けること | □有・□無 |  | 適・否 |
| 施錠できる構造  とすること | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑹ | エキノコックス虫卵除去装置 | 設けること | □有・□無  （場所　　　：　　　台） |  | 適・否 |
| ⑸ | 塩素滅菌器  （選定計算書添付） | | 2台以上(水道水併用の場合は1台以上) | （　　　　　　台）  水道水併用：□有・□無 |  | 適・否 |
| ⑺ | 浄水設備 | | 原水の水質に応じた浄水設備を設けること（計算書等添付） | □有・□無 |  | 適・否 |
| 排水口空間を確保すること | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑻ | 原水を採取できる採水栓 | | 設けることが望ましい | □有・□無 |  |  |

２　貯水槽の設置場所　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | | 基　　準 | 設　計　値　等 | | 参照図面番号等 | 判定 |
| 受水槽 | 高置水槽 |
| ⑴ | 設置場所 | | 建築物内で維持管理の容易な場所 | 地上（　 　階）  地下（　 　階） | 地上（ 　　階） |  | 適・否 |
| ⑵ | 点検空間 | | 上部 1,000 mm以上  下部　 600 mm以上  周囲　 600 mm以上 | 上部（　　 mm）  下部（　　 mm）  周囲（　　 mm） | 上部（　　 mm）  下部（　　 mm）  周囲（　　 mm） |  | 適・否 |
| ⑶ | 飲料水が汚染  されるおそれのある上部配管・機器等 | | ないこと又は  必要な措置を講じること | 上部配管・機器等  □無・□有  （措置：　　　　　　　　　） | 上部配管・機器等  □無・□有  （措置：　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑷ | 地下ピット内に設ける場合 | 昇降の際の  安全措置 | 安全に昇降できる措置を講ずること（階段、手掛かり、ﾀﾗｯﾌﾟの背もたれ等） | 措　置  （　　　 　） |  |  | 適・否 |
| 点検口の位置 | 安全かつ容易に出入りできる位置に設けること | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| 貯水槽の位置 | 点検口の直下に貯水槽を設けないこと | 直下に  □無・□有 |  | 適・否 |
| 汚染のおそれのある配管の貫通 | ないこと | 汚染のおそれのある配管  □無・□有 |  | 適・否 |
| 排水槽等の  隣接 | 隣接させないこと  （やむを得ず隣接させる場合、  離間距離を5m以上とること） | 隣接排水槽等  □無・□有  離間距離（　　 m） |  | 適・否 |
| 排水用ポンプ・警報装置 | 設けること | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| ⑸ | 換気設備 | | 十分なものであること | □ 有 ・ □ 無 | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| 照明設備 | | 十分なものであること | □ 有 ・ □ 無 | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| ⑹ | 床面の排水 | | 排水に支障のない構造とすること | 支　障  □無・□有 | 支　障  □無・□有 |  | 適・否 |

３　貯水槽の構造　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | 基　　準 | 設　計　値　等 | | | 参照図面番号等 | 判定 |
| 受水槽 | | 高置水槽 |
| ⑴ | 1日使用水量 | 根拠が示されていること | （　　　　　　　　m3） | | |  |  |
| 有効容量  （容量算定  計算書添付） | 過大でないこと  （1日使用水量に対して4/10～6/10【受水槽】、  1/10程度【高置水槽】） | （　　　　m3）  （　　　/10） | | （　　　　m3）  （　　　/10） |  | 適・否 |
| ⑵ | 消火用水槽との兼用 | 兼用しないこと | □ 無・□ 有 | | □ 無・□ 有 |  | 適・否 |
| ⑶ | 槽数 | 2槽式とすること | （　　　槽式） | | （　　　槽式） |  | 適・否 |
| ⑷ | 槽内部の給水管　以外の配管 | ないこと | □ 無・□ 有 | | □ 無・□ 有 |  | 適・否 |
| ⑸ | 高水位と天井との間の点検空間 | 十分な点検空間を確保 | □ 有 ・ □ 無 | | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| ⑹ | 流出口の槽底　　からの距離 | 沈積物を吸引しない距離  （150mm程度） | （ 　 　　mm） | | （ 　 　　mm） |  | 適・否 |
| ⑺ | 流入部と流出  部の位置関係 | 停滞水を生じない  ものとすること | □対称・□その他  （） | | □対称・□その他  （） |  | 適・否 |
| ⑻ | 貯水槽の材質 | 防錆措置を講じたもの | （　　　　製） | | （　　　　製） |  | 適・否 |
| ⑼ | マンホールの直径 | 600mm以上 | （　　 　mm） | | （　　 　mm） |  | 適・否 |
| マンホールの立ち上げ | 100mm程度 | （　 　　 mm） | | （　 　　 mm） |  | 適・否 |
| マンホールの防水措置 | 防水密閉型とすること | □ 有 ・ □ 無 | | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| マンホールの施錠 | 施錠できる構造  とすること | □ 有 ・ □ 無 | | □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| マンホールの  設置場所 | ボールタップ等の近傍に設けること | 近傍に  □ 有 ・ □ 無 | | 近傍に  □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| １槽当たりの  マンホール数 | 必要に応じて複数設けること | （ 　　　個） | | （ 　　　個） |  | 適・否 |
| ⑽ | 通気管の高さ | 汚水等が流入しない高さ  （200mm程度、通気笠を設ける場合は100mm程度） | （　　　mm） | | （　　　mm） |  | 適・否 |
| 通気管の口径  及び数 | 流出管の口径の２分の１以上とすること  （有効断面積を確保） | （ 　 　mm）x（　　）個流出管口径 　 （　　　mm） | （ 　 　mm）x（　　）個流出管口径 　 （　　　mm） | |  | 適・否 |
| 通気管開口部の  防虫網 | 網目は20ﾒｯｼｭ  （約1.3mm）を標準 | （　　）ﾒｯｼｭ | | （　　）ﾒｯｼｭ |  | 適・否 |
| ⑾ | ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管末端の  排水口空間 | 150mm以上 | （　 　　mm） | | （　 　　mm） |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管と  吐水口との  垂直距離  （吐水口空間） | 吐水口の呼び径に  応じた距離 | 主吐水口側  呼び径（ 　 　mm）  空間（ 　 　mm） | | 主吐水口側  呼び径（ 　 　mm）  空間（ 　 　mm） |  | 適・否 |
| 副吐水口側  呼び径（ 　 　mm）  空間（ 　 　mm） | | 副吐水口側  呼び径（ 　 　mm）  空間（ 　 　mm） |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管開口部の防虫網 | 網目は20ﾒｯｼｭ  （約1.3mm）を標準 | （　　）ﾒｯｼｭ | | （　　）ﾒｯｼｭ |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管の口径 | 流入管の口径の1.4倍　以上とすること | 管口径（ 　 　mm）流入管（　 　mm） | | 管口径（ 　 　mm）流入管（　 　mm） |  | 適・否 |
| ⑿ | 水抜管末端の　　　　排水口空間 | 排水口空間を　　　確保すること | □有・□無 | | □有・□無 |  | 適・否 |
| 水抜管の取付位置 | 槽底の最低部とすること | 最低部に  □ 有 ・ □ 無 | | 最低部に  □ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
|  | 水抜管の排水用  ホッパーの口径 | 床面に水が飛び散らない十分な大きさであること | （　 　　mm） | | （　 　　mm） |  | 適・否 |
| 非常用給水栓 | 設けることが望ましい | □ 有 ・ □ 無 | | □ 有 ・ □ 無 |  |  |

４　給水管　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | 基準 | 設　計　値　等 | 参照図面番号等 | 判定 |
| ⑴ | 保守点検空間 | 設けること | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑵ | 飲料水が汚染されるおそれのある設備 | 内部を貫通させないこと | □無・□有 |  | 適・否 |
| ⑶ | 給水管及び継手 | 水質に影響を与えない　ものを使用すること | 管　種（　　　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| 継　手（　　　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑷ | 直結給水栓  （水道水使用の場合） | 設けること | □　有　・　□　無 |  | 適・否 |
| ⑸ | 他の配管との識別 | 識別できる措置を　講ずること | □色分け　　□文字表示  □色バンド分け  □その他（　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑹ | 他の配管との接続の有無  （クロスコネクション） | 接続しないこと | □　無　・　□　有 |  | 適・否 |
| ⑺ | 逆流防止措置 | 給水管末端に吐水口　　空間を確保すること | □　有　・　□　無 |  | 適・否 |

添付書類（審査項目の内容を説明できるもの）

１　図面

　　⑴　付近見取図

　⑵　給水設備系統図（附帯する排水設備を含む。）

　⑶　給水設備主要機器表

　⑷　貯水槽（受水槽及び高置水槽）及び井戸等の設置場所がわかる図面

　⑸　貯水槽室平面・断面詳細図

　⑹　貯水槽本体平面・断面詳細図

　⑺　貯水槽室上階の給排水平面図

　⑻　井戸の平面・断面詳細図

２　計算書等

⑴　貯水槽容量算定計算書（１日使用水量の算定を含む。）

　⑵　塩素滅菌器選定計算書（井水等使用の場合。）

　⑶　水質検査結果書（写）（井水等使用の場合。水質基準に関する省令（平成１５年厚生労働省令第１０１号）の表の上欄に掲げる項目のうち、２１の項から３１の項及び４８の項を除く原水全項目の水質試験結果添付）

　⑷　浄水設備選定計算書（井水等使用の場合、必要に応じて。）

３　その他保健所長が必要と認める書類